パネルディスカッション-1

大学におけるFM教育の実践と今後について - I

持続可能都市へ向けた公共施設・建築再編提案

李　祥準 い さんじゅん
関東学院大学建築環境学部 専任講師
首都大学東京都市環境学部 客員准教授

全国の公共建築物・インフラの老朽化が深刻になっているが、情報・財源・人材等の不足によって既存の維持管理手法では解決できない現在、FM が注目されている。企業や地方公共団体も FM の導入に積極的になっている中、大学の教育はどのように変化しているのか。首都大学東京では「持続可能都市へ向けた公共施設・建築再編提案」をテーマとした修士課程講義中で、演習課題を取り扱った。町田市、武蔵野市、鎌倉市に協力をお願いし、自治体から情報提供やヒアリングに積極的に応じていただいた。演習課題では、自治体をひとつ取り上げ、多角的な視点から調査を行い、問題点の抽出とそれに対する改善案を提案することとした。今回のパネルディスカッションでは、首都大学東京大学院の都市環境科学研究科建築学域の授業として行った学生らの成果を披露するとともに、大学教育の重要性と学生の視点からの 公共FM の考え方とその潜在能力を披露し、今後の公共FM を再考した。

第1 部の学生発表は建築分野の授業における成果であるが、実際に敷地を選定した設計に留まるものではない。当初学生たちは、与えられた課題に対して、「どの部分が課題であるか」「何が必要であるのか」について、さまざまな視点からの調査を実施した。具体的には、自治体の財政状況、施設全体の老朽化状況、公共施設を取り巻く周辺環境などを調査した上で、さらには運営を行う行政へのヒアリングなど、想定していた以上の多角的な取り組みを行った。その結果として、学生たちは、「つくる側」の視点以外にも「運営者側」であったり「経営者側」であったり、各々の立場の視点からものごとを考え、それらをまとめ上げる体験ができた。6 グループが発表した提案は、自治体の現実を反映し、さまざまなアイデアが盛り込まれた優れたものである。演習では、自ら考えて分析して提案する流れや、プレゼンテーションの重要性も学べるようにした。その成果が出ていたと思う。発表会には有識者、FM 専門家、自治体関係者等、多様な分野の専門家の方々が参観し、学生グループの発表に対して鋭い質問をするなど、高い関心を示した。

参観者の感想としては、多角的な視点からの調査による問題抽出とそれに対する改善案の提案は、自治体においても事実上の検討を考慮するほどのものだという。何より、大きな収穫は半年余りの期間にこれほど変われる学生の吸収力と設計しかできないと思った学生の分析能力である。